2014年 登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格認定試験

二次試験（その２）　問題・解答用紙

注 意 事 項

① 二次試験（その２）は、No.３、No.４、No.５の３問で、解答時間は３時間15分（195分）です。
② 問題用紙（下書き用紙含む）は、No.３が２枚、No.４が２枚、No.５が２枚で合計６枚です。
解答用紙はNo.３が１枚、No.４が１枚、No.５が１枚で合計３枚です。
③ 問題は全問必須ですから、３問すべてに解答してください。
なお、配点はNo.３が20点、No.４が20点、No.５が20点で、60点満点です。
④ 解答用紙の全ページに受験番号をご記入ください。
⑤ 問題用紙、解答用紙はのり付けを切り放して使用してください。
⑥ 解答は、解答用紙に黒の鉛筆、シャープペンシル、またはペン等で記入してください。
下書き等に色を使用してもさしつかえありませんが、色を使った表現を解答した場合はその表現はすべて採点対象外となります。また、下書き用紙への記述はすべて採点対象外です。解答は解答用紙のみ記入してください。
⑦ 問題用紙の余白、下書き用紙は、計算等に使用してもさしつかえありません。
ただし、解答用紙には、計算等解答に関係のない記述はしないでください。
⑧ なお、二次試験（その２）は、No.３、No.４、No.５のそれぞれの採点結果を合計して評価いたします。いずれかの採点結果が著しく低い場合は合格に至らない場合があります。
⑨ 試験終了後は、解答用紙をページ順に並べ、机の上に置いてください。係員が回収するまでそのままでお待ちください。
⑩ 問題用紙は、試験終了時刻まで在席した方のうち、希望者に限り、持ち帰りを認めます。
途中退席した場合は、持ち帰ることはできません。

No. 3　造成・排水設計図を作成しなさい　（配点：20 点）

■ 課題

下記の環境条件を読み解き、造成・雨水排水に関する課題について平面図を作成しなさい。

■ 環境条件

□ 計画対象地は、住宅地にある街区公園の改修である
□ 計画対象地の北側と西側は住宅地、東側は幼稚園や集会所などの施設に接し、南側は道路に接している
□ 計画対象地は高低差があり、東側既存展望広場と南側道路は、階段や公園施設で接続されている
□ 計画対象地には平面図に示すとおり、階段、多目的広場、遊具、樹木などの公園施設があり、全てを活用する事が決定している
□ 多目的広場はダスト舗装で縁石に囲まれているが、ダスト舗装の不陸と雨水排水施設に不具合が生じている。ただし、雨水排水施設は既に撤去されている
□ 計画対象地の雨水排水は、既設の公設桝に接続し南側道路内の雨水本管に排水できるようになっている

1．造成に関する課題

下記の設計条件を満たす園路設計と造成設計をしなさい。

■ 設計条件

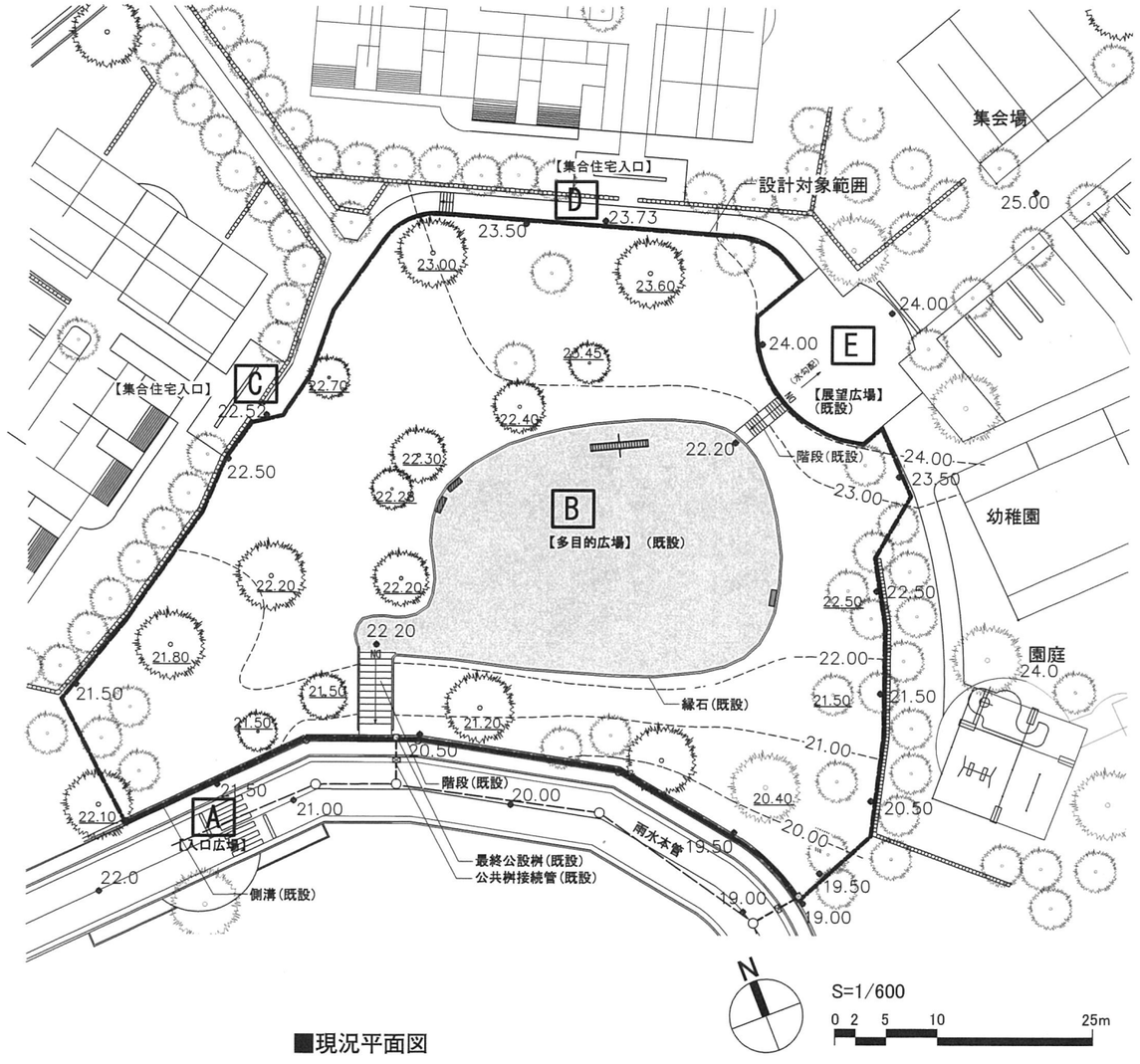
□ A（新設入口広場）、B（多目的広場に接続）、C・D（集合住宅地入口）、E（展望広場）地点を経由するバリアフリーに対応した園路を設けること
□ A地点からB地点を結ぶ園路は幅員3.0m以上とし、その先C～E地点へ至る園路は幅員1.8m以上とすること
□ バリアフリーに対応するため、設計する園路の縦断勾配は４％以下とすること
□ 段差解消のための階段や擁壁等の構造物は設置しないこと
□ A地点に、幅3.0m以上、奥行き1.5m以上の水平部を確保した入口広場を新設すること
□ 既存の公園施設や既存樹を全て保全した造成を行うこと。なお、既存樹の地盤高さは現況平面図に示すとおりとする
□ 接する道路等の高さは現況通りとする
□ なだらかなアンジュレーションとなるように、高さ0.5m間隔の等高線を作図凡例に従い記入すること
なお、等高線が現況と変わらない部分については記入しないこと
□ 多目的広場のダスト舗装の不陸整正を行い、表面排水勾配の方向を作図凡例に従い記入すること

2．雨水排水に関する課題

下記の設計条件を満たす雨水排水設計を行い、設計する排水施設を作図凡例に従い解答用紙に図示すること。

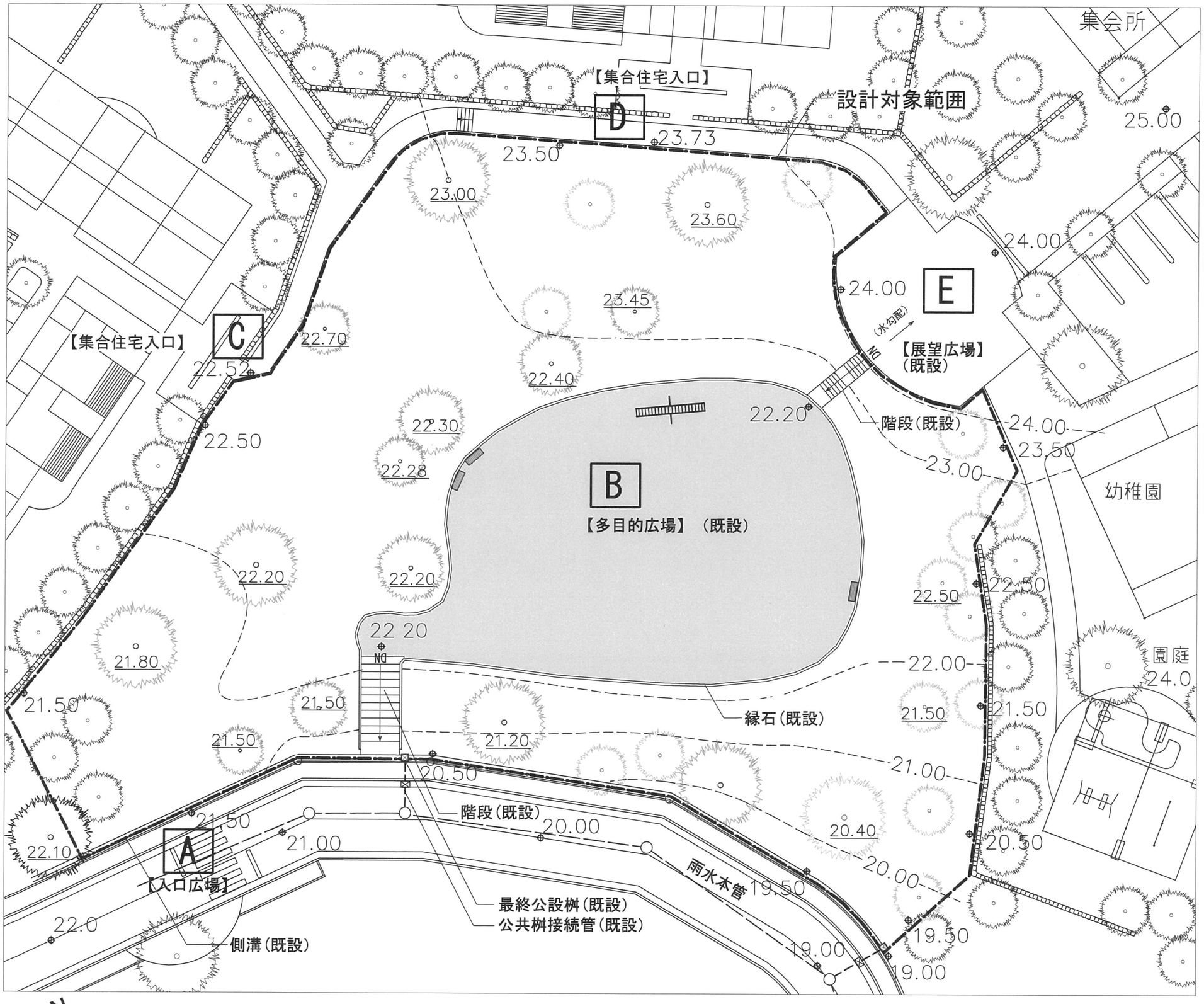
■ 設計条件

□ 計画対象範囲は、上記造成課題による園路と新設入口広場及び既存多目的広場とし、雨水排水は、全て既設公設桝に接続・放流すること
□ 設計する雨水排水の各種桝は20m間隔以下とすること
□ 多目的広場の縁石に不具合はないが、広場内の表面排水を集水すること
□ 雨水排水施設は凡例に従い解答用紙に図示すること
□ 雨水排水管の縦断勾配、管底高・許容排水能力、排水桝の構造等は考慮しなくてよい



■現況平面図

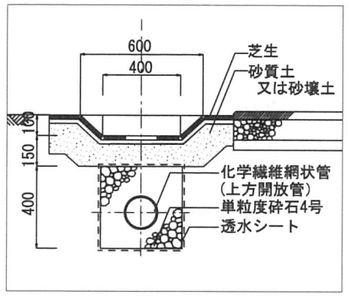
No. 3	造成・排水設計 問題用紙	1/2	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	



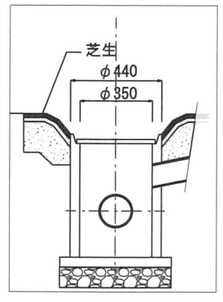
■作図凡例

- 雨水排水管
- グレーチング蓋付側溝 側溝桝・雨水排水管
- 芝側溝・芝側溝桝
- 計画等高線
- 計画排水勾配

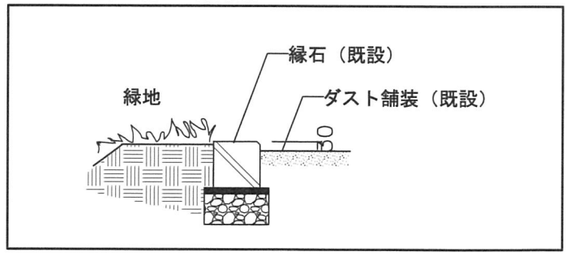
□芝側溝



□芝側溝桝



□多目的広場　端部縁石



- 設計対象範囲
- 21.00 現況等高線
- 20.50 現況高さ
- 21.00 既存樹地盤高さ

N

S=1/300

0　5　10　25m

No. 3	造成・排水設計 解答用紙	1/1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	受験番号

No. 4　植栽設計図を作成しなさい　（配点：20 点）

■ 課題

都市近郊の農地と住宅地が混在した地域において介護老人福祉施設の整備を計画している。整備計画の植栽設計にあたり、前提条件、設計条件、留意事項を満たすエリアごとの「植栽設計の方針」を記述すると共に、「植栽設計平面図」（凡例を含む）を作成しなさい。

■ 前提条件

□ 設計対象区域は、もともと平坦な農地であった場所であり、良好な土壌条件が保たれている
□ 当該地は、冬期の北西風が厳しい気候である
□ 設計対象区域の東側には地域の自然植生が残る丘陵の斜面林が良好な樹林景観を形成し、北側と南側は農地であり、西側は住宅地となっている
□ 整備される施設はリハビリ、介護機能に重点を置いた介護老人福祉施設である
□ 外周はフェンスで囲まれているが、外部から敷地を見た際に周辺の農村・斜面林と調和した景観的配慮が求められている
□ 植栽設計の対象となる３つのエリアは、以下のように位置づけられている

①「セラピーガーデンエリア」
植物を視覚以外でも楽しめる庭を設置し、リハビリ施設とする
また、適切なプライバシー確保が求められ、建物への日射の緩和（西日等）、冬期の季節風の緩和が必要とする

②「散策庭エリア」
居室からの観賞、および利用者の散策スペースとする
冬季の日照を確保しつつ、夏季には木陰で涼をとれるエリアとする

③「地域交流エリア」
斜面林への眺望景観を活かし、入居者と地域住民の交流の場としての地域交流施設とする
外周の道路から地域住民の自由な出入りが可能であるが、エリアの一部は福祉施設の居室が面するため、外部利用者に対して居室の適切なプライバシー確保を必要とする
地域交流施設はすでに地域の伝統建築をモチーフにデザインされている

□ 対象エリア以外はすでに植栽されている

■ 設計条件

1．設計対象地の地域設定について

□ 設計にあたり、解答用紙の設計対象地域の６地域の中から、あなたが設計を行う地域をひとつ選び、解答用紙の選択する地域の枠内に「レ」を記入すること

2．植栽設計の方針の記述について

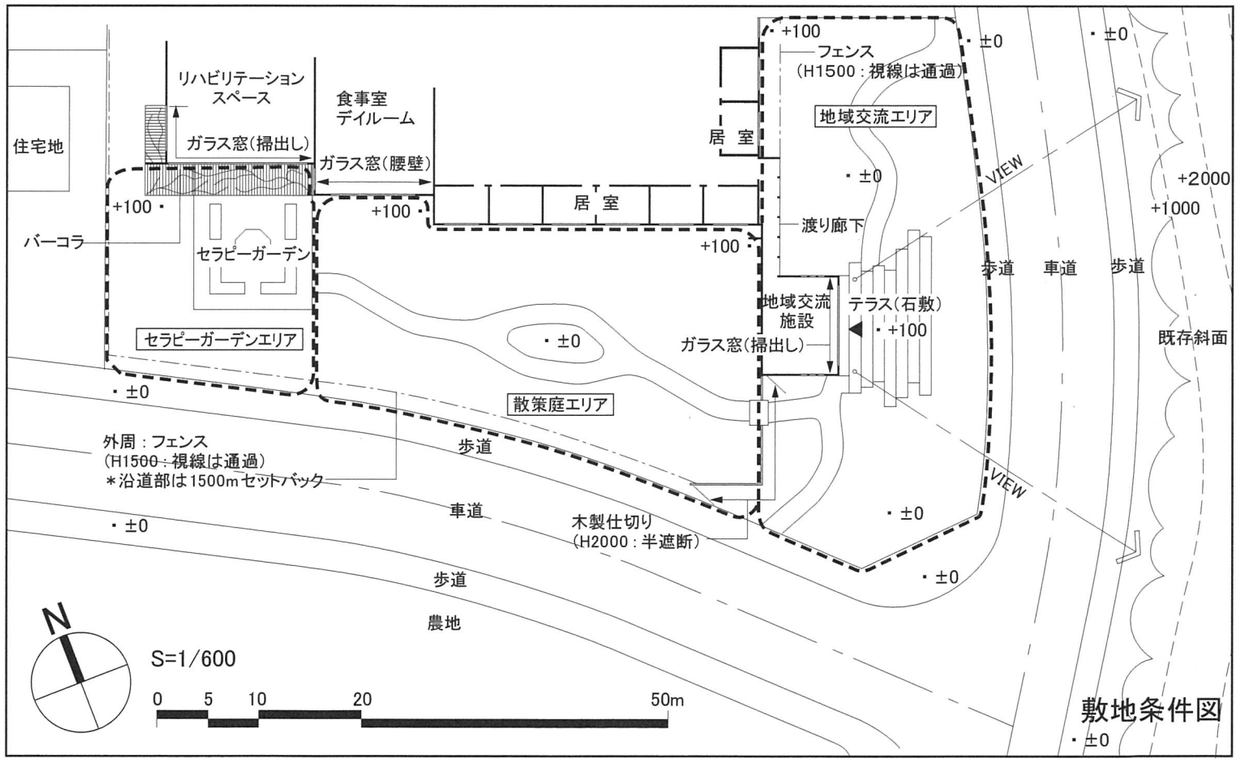
□ 設計対象区域となる３つのエリアについて、植栽設計の方針を解答用紙に記述すること

3．植栽設計平面図の作成

□ 東側斜面林に生育する既存樹木（２種類、K1・K2）を設定し、凡例表に記入すること
□ セラピーガーデンエリアに新植する高木・中木（２種類、G1・G2）、低木・地被（２種類、G3・G4）、パーゴラに配植するツル性植物（１種類、P1）を設定し、凡例表に記入すること
ただし、パーゴラに植栽するツル性植物は、実がなるものとする
□ セラピーガーデンエリアついて、図中の植栽桝SPに植栽する、視覚以外でも楽しめる植物としてふさわしい種を下の候補種から２種類選定し、樹種名を凡例表に、選定理由を凡例表に記入すること
※植栽桝 SP 候補種｛オオバコ、カラスノエンドウ、キリンソウ、クサギ、クロモジ、シソ、シロタエギク、スミレ、ゼラニウム、ニジノタマ、ハッカ、ヒイラギ、ビロードアオイ、ミント、ムラサキカタバミ、メヒシバ、ヨモギ｝
□ 散策庭エリアについて、新植する高木・中木（２種類、S1・S2）、低木・地被（３種類、S3・S4・S5）を設定し、樹種名を凡例表に記入すること
□ 地域交流エリアについて、新植する高木・中木（３種類、T1・T2・T3）、低木・地被（３種類、T4・T5・T6）を設定し、凡例表に記入すること

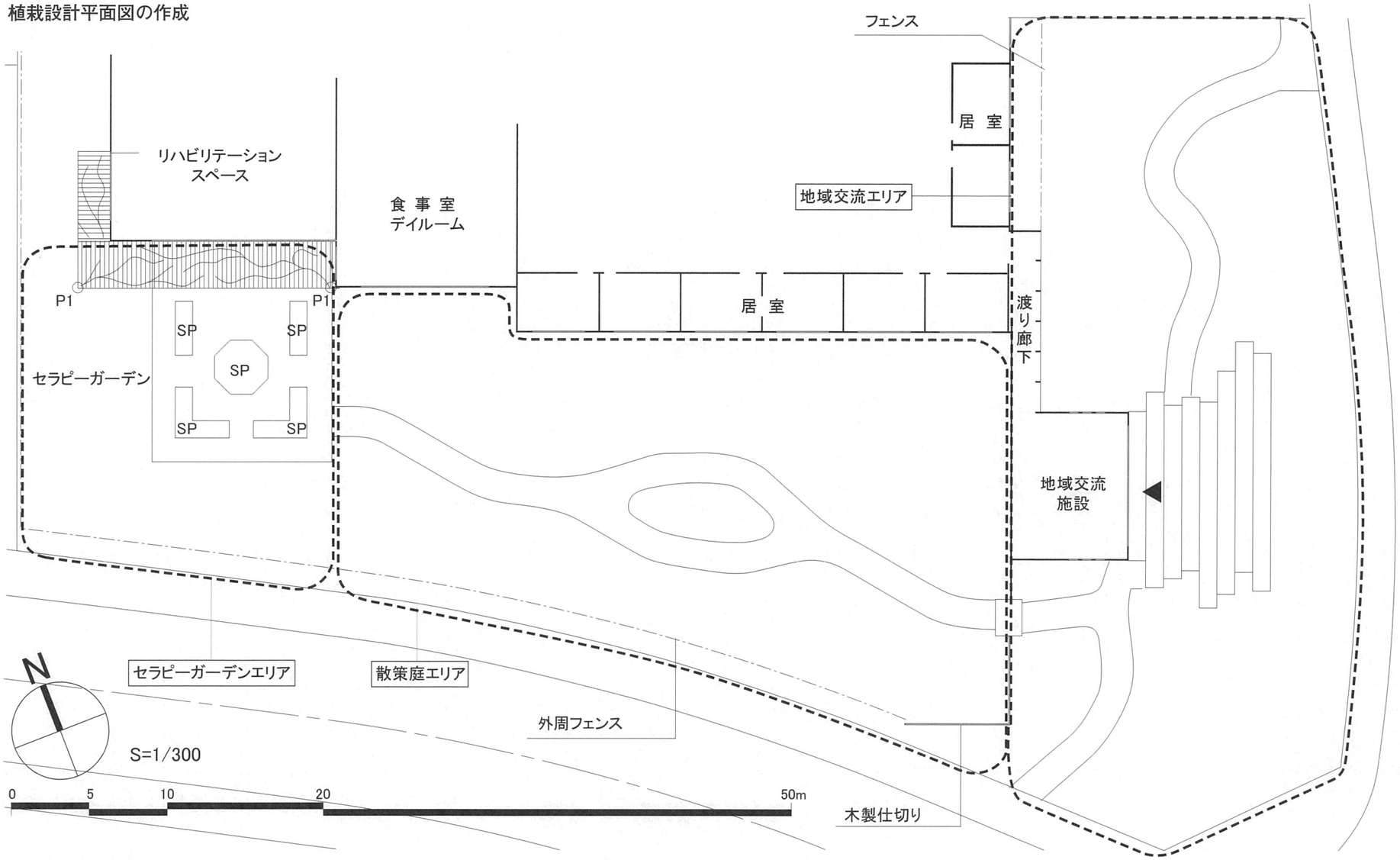
■ 留意事項

□ 新植する樹木は、常緑・落葉等を適宜自由に設定すること
□ 植栽設計平面図に図示する植栽は、解答用紙に記載された凡例記号を参照して記入すること
また、樹木の枝張りは植栽から５年後程度を想定して表現すること
□ 植物の名称は、和名または学名で記述すること
□ 植物の形状寸法は、市場性に配慮し植栽時の寸法を記入すること
□ 条件や留意事項に記載のない施設や植栽を表現してもよいが、採点の対象外とする



No. 4	植栽設計 問題用紙	1/2	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	

3．植栽設計平面図の作成



1．設計対象地の地域設定

□北海道、□東北・信越、□関東・中部、
□近畿・中国、□九州・四国、□沖縄

3．凡例表

記号	区分	樹種名	形状寸法（m）		
			H	C	W
既存樹木					
K1	高木・中木				
K2	高木・中木				
セラピーガーデンエリア					
SP	低木・地被				
	低木・地被				
G1	高木・中木				
G2	高木・中木				
G3	低木・地被				
G4	低木・地被				
P1	ツル性植物				
散策庭エリア					
S1	高木・中木				
S2	高木・中木				
S3	低木・地被				
S4	低木・地被				
S5	低木・地被				
地域交流エリア					
T1	高木・中木				
T2	高木・中木				
T3	高木・中木				
T4	低木・地被				
T5	低木・地被				
T6	低木・地被				

植栽桝 SP 候補種の選定理由	
（候補種）	（理由）
（候補種）	（理由）

※凡例の種別と表現方法（例）

常緑高木・中木：S1　　低木：S3

落葉高木・中木：S2　　地被：S4

2．各エリアの植栽設計方針

セラピーガーデンエリア植栽設計方針

散策庭エリア植栽設計方針

地域交流エリア植栽設計方針

No. 4	植栽設計 解答用紙	1/1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	受験番号

No. 5　詳細図を作成しなさい　（配点：20 点）

■ 課題

□ 右図の整備対象地において、自然観察を主目的とする散策路と流れ等を整備するにあたり、以下の環境条件、設計条件、留意事項を満たす断面図を作成しなさい

□ 作成する断面図は、現況平面図Ａ－Ａ’断面（解答用紙の整備対象範囲内）の位置とし、概算工事費の積算に必要な材料名称、形状寸法、仕上げ、仕様、寸法等について引出し線や寸法線などを用いて明記すること

■ 環境条件

□ 整備対象地は、芝生広場と斜面樹林地に挟まれた、幅８～10ｍ程度の低地で、現況は芝生や雑草に覆われている

□ 低地には、季節変化はあるものの通年、斜面からのしぼり水による流水が見られる

□ 斜面樹林地の植生は、地域を代表する雑木林で、林床植生も発達している

□ 斜面樹林地の一部のり尻部に段差があり、斜面樹林地の保護が必要である

□ 整備対象地には芝生広場からの雨水が流入するが、周囲にあふれることはない

■ 設計条件

1．石積みについて

□ 斜面のり尻部に、斜面樹林地の保護のために石積み（空石積）を設けること

□ 石積みに用いる石材は、現場発生材（φ300内外、控え長350内外）の自然石を使用すること

2．散策路について

□ 芝生広場に沿って、車椅子が通行できる幅員（有効1.8ｍ）の散策路を設けること

□ 散策路は、適切な舗装と縁石を設けること

3．流れについて

□ 石積みと散策路の間に、流水を活かし自然観察に適した流れを設けること

□ 流れは、水生植物や生き物の生育・生息を可能とする構造とし、流水幅員0.5～1.5ｍ、水深5～20㎝程度とすること

□ しぼり水による流水を活用するため、適切な工法による防水工を施すこと

4．植栽について

□ 流れを修景する低木２種類と水生植物１種類を選び、断面図に樹種名と形状寸法・樹姿を示すこと

5．雨水排水施設について

□ 芝生広場と散策路の間に、適切な雨水排水施設を設けること

6．解説版について

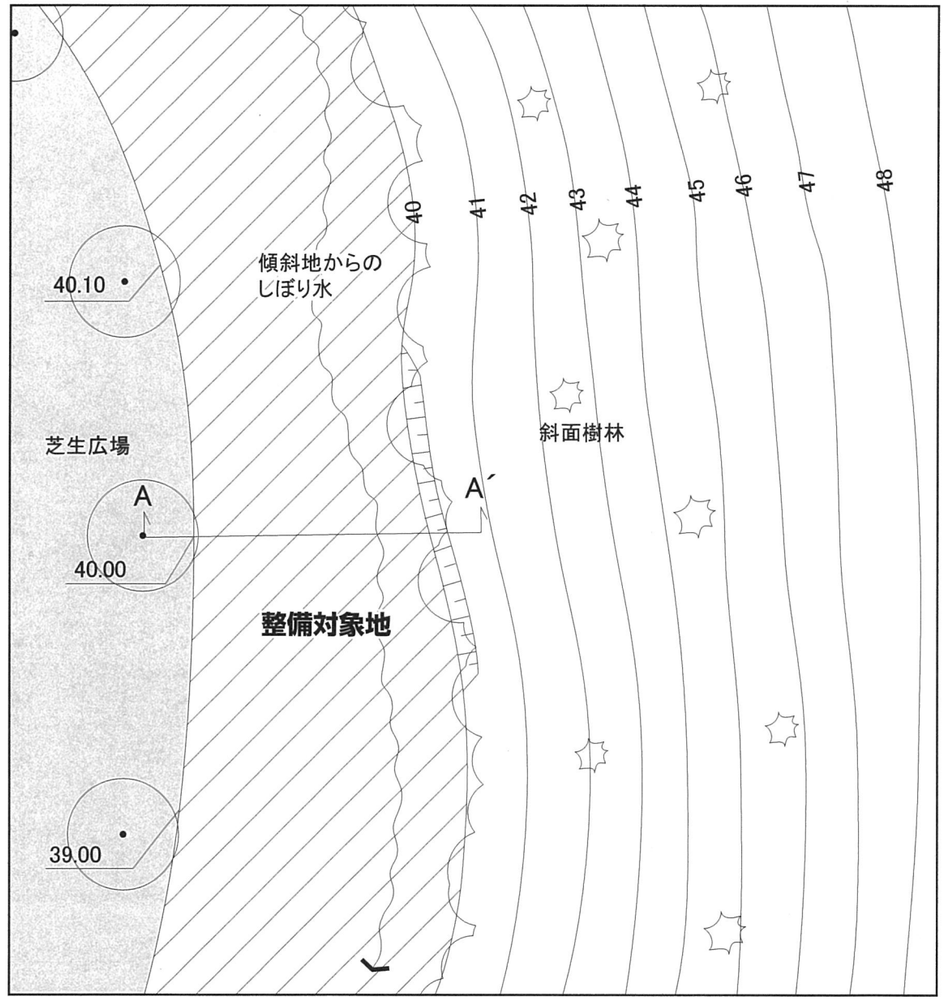
□ 散策路脇に、流れ等の自然観察のための解説板を設けること

■ 留意事項

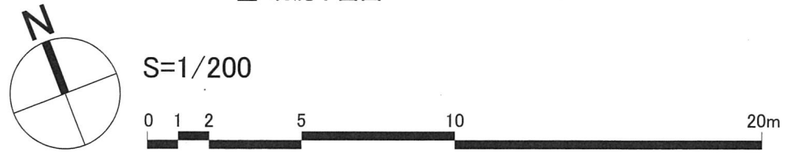
□ 造成に必要な土の搬入・搬出は、考慮する必要はないものとする

□ 各構造物について地盤安定や凍結等の条件は、考慮する必要はないものとする

□ 雨水排水の処理能力や末端接続等は、考慮する必要はないものとする



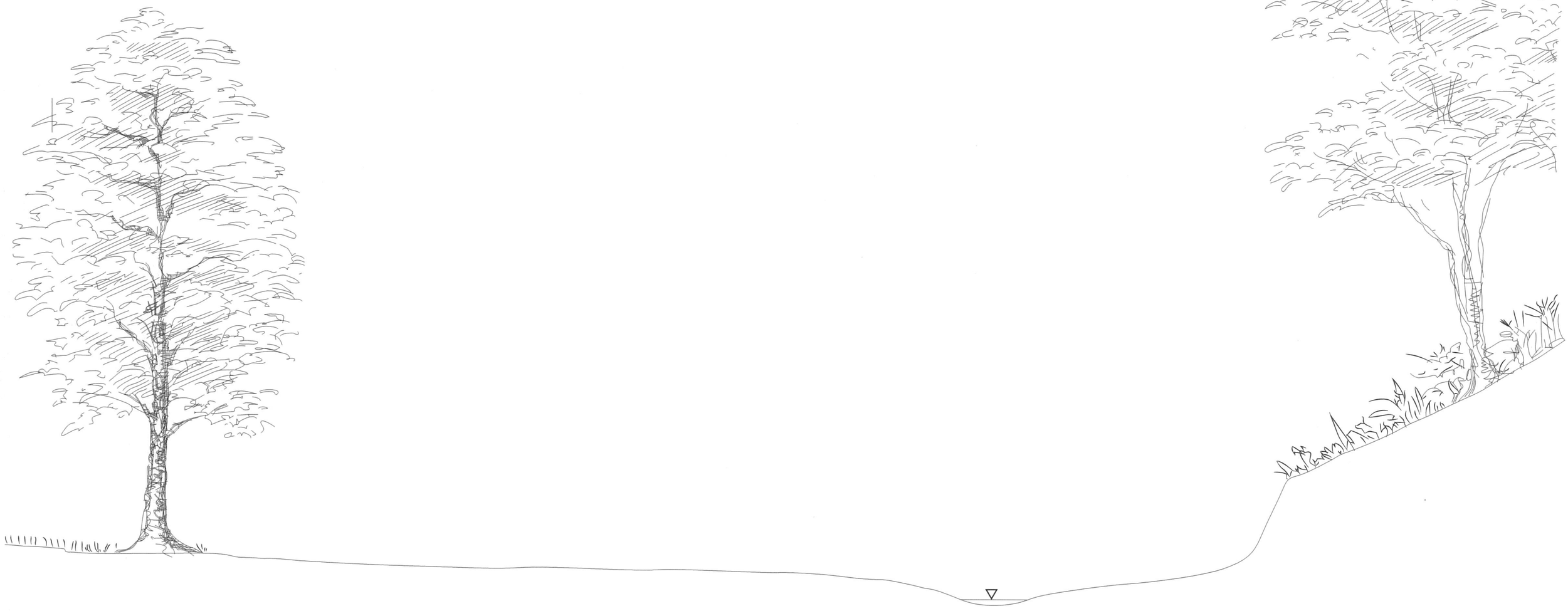
■ 現況平面図



No. 5	詳細図 問題用紙	1 / 2	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	

整備対象範囲

■ A-A′ 断面図



S=1/30

0　0.5　1.0　2.0m

No. 5	詳細図	1	RLA 資格認定試験	受験番号	
	解答用紙	1	Registered Landscape Architect		